

令和 3 年度（2021 年度）  
学校自己評価報告書

令和4年(2022)10月4日

早稲田医学院  
歯科衛生士専門学校

## 1：教育目的と教育目標

### 【目的】

本校は学校教 法および歯科衛生士法に従い歯科衛生士として必要な教育を行い、口腔衛生の向上をはかり、徳性豊かな人材を育成し、社会に貢献する事を目的とする。

参照：学則 第1条（設置目的）P1

### 【校訓】

素直であること  
独立心を養うこと  
まじめであること  
感謝の心を持つこと

参照：学生便覧トビラ

## 2：令和3年度 学校自己評価について

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいた評価項目について教職員一丸となり実施し、総合的に分析評価した。

この自己評価を行うことにより、教職員全員の意識向上を図るとともに、教育の質の向上に努めていくことを確認した。

参照：「専修学校における学校評価ガイドライン」文部科学省生涯学習政策局

## 3：自己評価の項目

- 1) 教育理念・目標・人材育成像
- 2) 学校運営
- 3) 教育活動
- 4) 学修成果
- 5) 学生支援
- 6) 教育環境
- 7) 学生の受け入れ募集
- 8) 財務
- 9) 法令等の遵守

## 10) 社会貢献・地域貢献

### 4：評価項目に対する評価

適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや適切・・・2、不適切・・・1

### 5：評価項目の達成及び取組状況 教職員による自己評価

#### 1 教育理念・目標・人材育成像

	評価項目	取組み	
1-1	教育理念・目的・育成人材像が定められているか	教育理念は本学のパンフレット、HP、体験入学等において公示され周知させている。教育理念に基づいた、教育カリキュラムが構築され学生便覧やHPに掲載しガイダンスを通じて周知・指導している	4
1-2	教育理念および教育目標の周知		4
1-3	教育理念に基づいた教育カリキュラム等の構築		4

#### (課題)

学外への情報発信となる媒体を通して、公示しているものの、これらの在校生における認識の差が存在している。

#### (今後の改善方策)

新入生ガイダンスを含め、全学年のガイダンスで再確認を行う。

#### 2 学校運営

	評価項目	取組み	
2-1	教育理念に沿った運営方針を定めているか	教育理念に基づく努力目標を定め、期末ごとに整合性を見直しを行なっている	4
2-2	教育理念に基づいた事業計画が定められているか	教育理念を達成するために多くの実習系事業計画の策定を行う	4

2-3	法人は学校運営のための適正な組織運営に努めているか	全体会議での目標提示と、期末の内省を実施し、各担当部署会の会議において達成のための方策を検討する	3
2-4	学校運営における方針の共通認識を教職員ひとりひとりが把握する	年度ごとに全体会議にて目標提示し、全職員で情報共有する	3
2-5	人材・給与制度に関する制度を整備しているか	各部署の分掌に相応しい人事を行い、(医)親光会の「賃金規程」に基づき給与を決定	4
2-6	意思決定システムが整備されているか	学校教育に関わる政策の立案・策定を、学校に関係する多様な人たちで共同できる管理・運営組織の構築に努める	3
2-7	業務の効率化、情報システム化が整備されているか	制度の見直しによる効率化と、全学的情報システムの構築の検討を始める	4

(課題)

コロナの関係で目標設定の達成度の確認が不明朗になってしまっている。

(今後の改善方策)

学内の情報の一元化をさらに図り、各部署間の情報を共有し、相互に評価できるようにしていくことが必要である。

### 3 教育活動

	評価項目	取り組み	
3-1	教育目標の設定がなされているか	各科目の教育目標に基づきより具体的な重点努力目標を設定 参照：シラバス	4
3-2	目標に基づいた教育方法が実施されているか	修学の状況に応じて、その都度、教育方法の見直し等も行い、期ごとに担当者間で科目連携の強化も行なっている	4
3-3	教育評価の実施	学習・成長に関わる事柄を学生個人の単位で把握・判断し、教育実践の改善のために教務委員会で常に検討している	4
3-4	学生の理解度を向上させる	「完全習得学修」をめざし「形成的評価」の結果に応じて理解度を確認し授業構築や授業内テストなどを実施している	3.5
3-5	成績評価・単位認定の適正化	学則に則り、学生便覧およびシラバス上で学生に周知させ、期ごとに保護者への状況報告も行なっている 参照：学生便覧	4
3-6	資格・免許取得の指導体制	基礎科目の事前学習・事後学習や、講義・	4

		実習後の事後考察を取り入れながら、国家試験合格に向けたレベル別プログラムを実施している	
3-7	資格取得後の実践力・即戦力を養う教育内容の実施	ライフステージに合わせた臨地実習や臨床実習において直接対面行為等の実施を取り入れる	4
3-8	教員・教員組織	全体会議を通じ、授業評価の方法と後進指導、および、教育目標に合致した教育の提供のために外部講師との連携を図る	3
3-9	教員の教育力の向上	教員対象講習の実施、教員間の授業内容検討、学会、講習会等への積極的参加などFD(Faculty Development)を計画する	3

(課題)

コロナの関係で、特に講義を中心とする授業においては、オンラインによる授業形態を取らざるを得ない状況下の中で、学生の理解度の確認が思うように進まなかった。

(今後の改善方策)

オンライン授業の中で学生のレスポンスを確認するために、クリックカーアプリの利用も視野に入れて、至急検討す必要がある。

#### 4 学修成果

	評価項目	取り組み	
4-1	就職率(在学中に内定率 100%を目指す)	就職セミナーの開催、求人票の閲覧、学生の希望に即した就職先の、個別助言の働きかけを随時行う	4
4-2	資格・免許取得率(国家試験合格率 100%を目指す)	入学後から卒業まで資格取得を意識した授業展開の実施と、事前国家試験対策講座を実施	4
4-3	卒業生の社会的評価	卒業後の就業状況の公表、卒業生の活躍の場を HP 等で掲載、卒後研修において学びの場の提供と新規業界情報の発進	4
4-4	社会人適応力の向上	医療人として、コミュニケーション能力、対人スキル、問題解決能力、発想力・戦略的思考力、チームワークスキル、情報整理力を養う	4
4-5	医療人としての規律性を身につける	学則に基づき規律違反の者には適切な対応を行うが、懲戒に至らぬよう担当が手厚く指導する 参照：学生便覧	3.5

(課題)

社会人適応力や、医療人としての規律性の向上を目指し努力はしているものの、その成果の立証がなされていない。

(今後の改善方策)

卒業生、同窓会とも連携をとりアンケート調査や、卒業生を対象に現在も行なっているセミナーを通じて情報を集め、それらの成果の確認をおこなう。

## 5 学生支援

	評価項目	取り組み	
5-1	就職等進路の支援 (就職先のイメージ構築)	一般開業医勤務以外の企業、行政、教育、病院等の歯科衛生士だけでなく、幅広く、大学編入等の個々の希望に沿ってサポートを行う	4
5-2	職場開拓(歯科衛生士としての職の幅の拡大を図る)	臨地実習等でライフステージに合わせた多種多様な体験を通じて将来的なビジョンを描けるように働きかける	3
5-3	中途退学への対応	不登校・素行不良・学力・技術力不足など、修学上問題となる事象があれば、担任が寄り添いながら、かつ迅速に対応していく	3
5-4	学生相談	修学上弊害となる全ての事象に、担任が寄り添いながら、個別相談を受け、問題解決に努める	3.5
5-5	適正な学生生活を送るため自己管理能力の向上を図る	身だしなみ・健康管理・時間・報告・連絡・相談・持ち物管理の徹底を専任教員が中心となり必要性を説き日常的に働きかける 参照：学生便覧（雑則・基礎実習心得・懲戒規定・倫理規定）	3.5
5-6	学生健康管理の徹底	健康診断後の事後措置、早期の受診勧告とワクチン接種等を働きかける 参照：学生便覧（感染症への対応措置の実施基本方針）	4
5-7	保護者との連携	期毎の成績表および出席状況等の報告文書に加え、修学上問題となる事象など、必要に応じて保護者への報告(電話、文書、面談)を行う	4
5-8	卒業生・社会人	卒後研修の実施、および多職種との交流の場を設定することで、今後のキャリア形成の発揚を	4

		促す	
--	--	----	--

(課題)

学修だけでなく、学生生活全般に関する指導まで行き届いた指導ができる時間と能力が教員側に欠けている側面が見え隠れしている。

(今後の改善方策)

大学の学生課で学生生活の相談や指導の経験のある人材を採用し、教員への研修をおこない、共に学生の支援に与していくことが必要となる。

## 6 教育環境

	評価項目	取り組み	
6-1	施設・設備等(教育機器の整備、購入の検討)	電気設備、エレベーター、消防等の定期点検を実施し、必要に応じて教育機器も含め必要に応じて更新を図る	4
6-2	省エネとエコロジー運動の推進	空き教室の照明・空調をオフ、衛生設備・給水設備等の節水、分別ゴミと換気の徹底を図る	4
6-3	学外学習、インターンシップ(臨地・臨床実習)等の充実	歯科医療の社会的役割の変化に伴い、学外研修の実施および臨地実習先の拡大を図る	4
6-4	防災・安全管理	防災訓練の実施、および職員学生の防災用品として飲料水と乾パン等を確保し、災害マニュアルの策定を図る	3

(課題)

コロナの影響でアカデミックカレンダーが授業優先の変更に次ぐ変更で、防災関係の行事が実施できず学生も含め関心が遠のいてしまっている。

(今後の改善方策)

コロナ禍の影響を受けることのないアカデミックカレンダーを組み、防災用品の更新の際に飲料水や乾パンを学生に配布するが、その時に、防災安全管理の情報も併せて喚起するよう努める。

## 7 学生の受け入れ募集



	評価項目	取り組み	
7-1	学生募集活動	計画的な高校訪問の実施しと、学内におけるオープンキャンパス、学校説明会の開催。また、教職員間でも広報活動に関して起案し、HP、SNSなども活用する	4
7-2	歯科衛生士の認知度の向上	高校訪問で教諭や保護者に、歯科衛生士の社会的役割の重要性を伝え、HPでもその社会が必要としている職能であることの紹介する	3.5
7-3	適正な入学選考	募集要項の提示、入試方法別の選考方法、一般入試問題の出題傾向、および面接試験内容例の公表、面接試験の点数化	3
7-4	学納金	募集要項および入学決定者への文書提示、分納方法の明示、中途退学者等への学費返納 参照：学生便覧_学則	4

(課題)

歯科衛生士の認知度の向上に関して、新鮮な情報源に欠けていることから、インパクトに欠けている感がある。

面接試験の点数化の客観性が問われている。

(今後の改善方策)

常に現場の動向を見据えて、受験生にタイムリーで無力的な情報をながすことが必要である。

面接試験の点数化の際の指標を全面接官で共有する必要がある。

## 8 財務

	評価項目	取り組み	
8-1	財務基盤	事業計画に基づき財務計画、収支予算書の作成を行い、理事会の承認を得て、安定的な学校運営を図っている	3
8-2	予算・収支計画	予算、収支計画を公認会計士の監査の下、立案、実施を図り、理事会においても監事が監査している	4
8-3	監査		
8-4	財務情報の公開	情報公開マニュアルの規定に沿って財務情報の公開を図る	3

(課題)

前年度に事業計画は立て、それに基づき逐一実施されていくが、コロナ禍の関係で計画の変更補正が必要となることがあった。

(今後の改善方策)

それらの変更修正も吸収できる、ゆとりを持った事業計画を組めるように努力する。

## 9 法令等の遵守

	評価項目	取り組み	
9-1	関係法令、設置基準等の遵守	文部科学省、厚生労働省、東京都、新宿区の指導および規定に従い実施している	4
9-2	個人情報保護	学生募集に掛かる情報は管理ソフト(infoクラウド)で管理運営し、在校生情報に関しては学内ネットワークで共有し管理運営を図り、学生情報の学外持ち出し禁止を徹底	4
9-3	学校評価	年度末から学校自己評価の準備を進め、出来るだけ情報を教職員間で共有し、結果をHP および外部講師へ文書等で公表している	3
9-4	教育情報の公開	HP 上でアドミッション・ポリシーを明示し、本学の教育システムを Q&A 形式を含め分かり易く公開を図り、本学の教育内容や歯科衛生士への理解度の向上を図る	3.5

(課題)

学校自己評価は結果として公示するものの、その活用成果が顕著にはなかなか見えてきていない。

(今後の改善方策)

教職員間で活発な議論を行い、PDCA サイクルの活発な改善が必要。

## 10 社会貢献

	評価項目	取り組み	
10-1	社会貢献・地域貢献	教育活動として地域の小学校の歯科保健指導の実施、社会貢献として教育施設を開放し、セミナーやノラ猫対策打ち合わせなど	3

		地域住民との連携を図る	
10-2	ボランティア活動	近隣のゴミ拾い活動や、ノラ猫対策の立案・実施など	3

(課題)

コロナ関係で従前のように社会との関係がいささか稀薄になってしまっている。

(今後の改善方策)

コロナの終息を願うと共に、現況における更なる社会貢献の方策を案出する必要がある。

#### 【総括】

今回の学校自己評価では、前年度に比べて、教職員間での情報の共有、全教員の学校運営に関する共通認識、意思決定システムの可視化、情報システムの整備、教職員組織の見直しがなされ、議論する際の基盤は構築されたものの、その議論の核となる対象の認識の軽重に差があり、その差を埋めるために問題意識の共有を、先に議論する必要性を痛感すると同時に、更なる教職員の有機的つながりの強化を図る必要があることを確信することになった。

一方で今後、設置母体である医療法人社団親光会の理事会と真摯に向き合い、専門学校として、更なる健全な教育環境・教育システムの確保と、社会に本学の卒業生を受入れていただき、正しく社会貢献ができるように、安定して卒業生を排出できる教育機関であり続けられるように努めていかなければならないと確信した。